〔大正十年四月二十二日第三種郵便物認可〕 昭和四年六月二十日 磐城新聞 〔木曜日〕 第二千五百六十三號 (一)

磐城新聞 （十九日夕刊）

休刊 大祭日 第一第三日曜
定價〔壹枚二錢、壹ヶ月五十錢、郵税十錢〕
廣告料〔二行五十錢指定廿錢增〕
發行兼編輯印刷人 遠沼龍輔
發行所 福島縣平町田町拾六 磐城新聞社

駒ヶ岳を語る

今村明恒

火山には間歇的に噴火するものと、さうでないものとありますが駒ヶ岳は間歇的に噴火する火山で十年乃至四、五十年に一回の割で噴火します、そして間歇的に噴火する火山はすべて前回の爆發が強いと休眠時間が長く、又次の爆發は弱いのが普通です。駒ヶ岳の前回の爆發は大正七、八年でこの時は爆發が小さかつたので今度は盛なのです

◇

記録によると駒ヶ岳の爆發時間は長くて一週間です。今度の爆發も大して長いことはなく、三日位で納まるものと思ひます

それからこの駒ヶ岳の噴火は大抵時間的に決まつてゐます、時季で言へば一年中でも一番氣壓の低い夏時間で云つても一日の中で一番氣壓の低い午後一、二時か、午前二三時ですこれは火山の性質によつて、一樣には言はれませんが大抵の火山がこの刻限に爆發します。なほ駒ヶ岳がどんなに噴火しても今まで一度も熔岩を流したことがないのですが新聞の報道によりますと盛に熔岩を流してゐるやうです、これは何かの間違ひで前例から推して、燒石が降つてそれが堆積したのではないかと思はれます

◇

駒ヶ岳の一番大きな爆發は安政四年です、降灰の量にしても今回よりは餘程多かつたやうで、この時は留の湯の堆砂三丈に及び、降灰は松前に著しく弘前にまでも及んだのです。その次の爆發は明治二十一年でこれは一寸眼を覺した程度で勘定に入りません、その後明治三十八年に至り八月十九日に稍大きな爆發を起しまし[illegible]無氣味な鳴動を始め十九日の朝になつて到頭爆發し、日増しに勢を増して最も旺盛な噴火を四日間續けましたこの時の噴煙の高さ千米突を算し降灰は火口から二里半の距離に達しました、このフン火での被害は二十一日の降雨のため堆炭が決潰し、泥水の氾濫が起り、農作物が大分やられました

◇

大正七年八月十五日、私は駒ヶ岳に踏査に赴き火口原に一つの岳を發見しました、外國式に云ふなら「イマムラ丘」とでも云ふべきでせうが、私はこれを單に無名丘と名づけこの丘を調査した結果、將來こゝから噴火があるだらうと考へました、この時の駒ヶ岳は安政四年と明治三十八年の爆發で勢力弱はり、フン出する蒸氣は七十六度で火山としては温度の低いものでしたが、この丘の横からフン出する蒸氣は物騷な音を伴ひ温度は沸騰點を越ゑてゐます（火山からフン出する蒸氣は百四十度位になることがあります）で、この丘に將來の爆發を豫想したのですが果して翌八年の六月十七日に此處からフン火し丘は中央から裂け翌々年の九年一月にもこの丘、爆發がありました。

陽の日 音の國
新暦 六月二十日
舊暦 五月十四日

▲一白 の人少し宛は吉き方に向けど、無理は通らぬ日▲二黒 の人口さへ愼めば上下和合何事も張合よく運ぶ▲三碧 の人浮き雲の如に落付き定かならざる薄運の日▲四綠 の人望み大に過くれば纒まり付かず程合ひ肝心▲五黄 の人結算をすれば思ふたよりも得る所の多き日▲六白 の人質素にし且つ萬事手控へして堅く守るべし▲七赤 の人能く〳〵注意して進まざれば暗礁に當る日▲八白 の人仕入れは注意すべきも他の事は多く通逹す▲九紫 の人迷ふことなく所信に向つて徐々に進むべし

俳句

小川郷 吉岡獨歩

農村の夏

老いたる繭を板間に山積す

田植すなり野良着怪しき老教師

二毛作の倒れ麥をば苅り急ぐ

屑繭にかつと五月の陽がそゝぐ

堆肥茱萸の花の灰色が積もる

市戻りの家苞見ゆる繭籠に

早苗減りて日に日に田面青みゆく

早苗不足を直播なせる小田數畝

麥の跡に早苗植ゆなり水滿ち

豌豆の花の白きが黄昏るる

小説 死を超ゆる者 (15)

三上於菟吉作 布施平八郎畫

空閨の貴女（五）

「それにお母さんお年を召してから出來た順ちやんの方が可愛いゝやうな氣がなさるんでせう尤もお二人ともよその親達よりも愛が薄い方のやうにも、私も感じたことがあるけれど……」

と和子は言ひかけて

「だけど……あなたはとき子さんの事を……つまりとき子さんと親しい仲だといふことを打明けになるお積りなの？」

「それを言はなければなほのこと聽いて下さらんでせう」

「だけど、私はまだ相談を受けたわけでも何でもないけど、お父さまお母さまはあなたに取り合せようと思ふ人をちやんと定めていらつしやるやうに思つてゐてよ、勿論門閥や財産といふ上から見てもとき子さんなんかのことを言つたら御承知なさるとは思はれない」

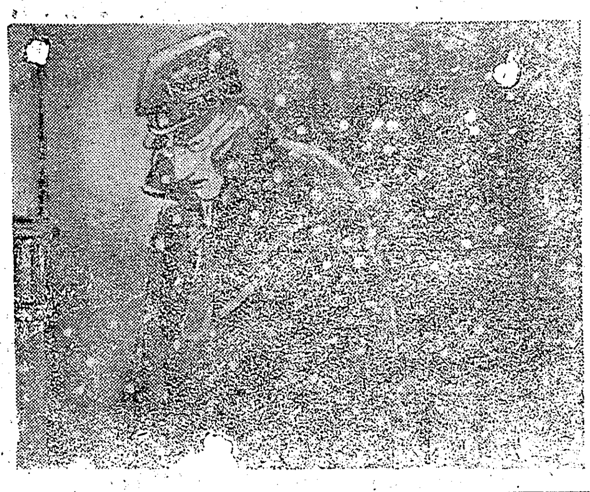
「いゝね、その方は後にしてもいゝんです、問題が違ひますからね……」

「それを別問題にして、佐柄さんの不幸をお父さまが救つて下さるだらうと思ふの？」

勇は首をたれた、やがて姉を眺めて

「姉さんは今た二人が僕と誰かを取り合せやうと考へてゐるやうだと仰しやいましたね？」

「あなたには氣がつかないの？」



「ねゝ、さつぱり……」

「まア」と和子ははじめてほゝ笑んだ

「私もなか〳〵好きな人なのよ、あなたは今夜も逢つてゐてよ」

「解らない」

「困つた方ね……ほんとに解らないの」

「全くですよ、お母さんが定めて居るものが僕に解りますか、あたりまへぢやありませんか」

「でも勇さん、人のことぢやあるまいし、自分のことでしやう、ちつとは御存じしやう」

「困つたな、今夜も逢つたことのある人とは、さて誰なんでしやう、そうして姉さんも好きな方とは、いよ〳〵もつて僕は解りませんよ敎へて下さいね」

「勇さん、そんなに知らんと仰しやつても誰でもが知つて居ますよ、かんじんの本人が未だに推量がつかぬなんかと言つても、人は承知しませんよ、呆れてしまいますよ……」

「事實、全く解りませんよ二人で今夜逢つた人の中にその方が居られたなんて云はれては、いよ〳〵もつて僕には見當がつきませんよ

「困つた方ね――それぢや敎へてあげますが、ほんとにそれでも御存じないの…

「姉さんまでがまだ疑つちや困りますよ事實ですよ」

「そんなら敎へてあげますがね、あの妙子さんよ」

勇は心から呆れたやうに叫んだ

「妙子さんですつて！莫迦ナ！あの娘はまだ赤んぼうぢやあないか、たしか十六ですよ」

「十六なら來年十七になるわ」

と姉は笑つた、けれどもその笑ひはすぐ止んだ、二人はまだ憂鬱な沈默に陷つた

たうとう櫻木家に着いた勇は門のところで下りた

「も少し早いと遊んで行つて頂くのにね」と和子は言つた

「いや、歸つてゆつくり考へませう」と勇は答へた

彼れはそのまゝ最近は電車停留場の方へ歩き出した電車を待つてたゝずんでゐる間にほの黒く濁つた夜空からたうとう大きな雪片が音もなく舞ひ落ちはじめた勇はマントオの襟を立てゝ大急ぎに歩んで往きました

平町紺屋町
藤沼醫院
電話五〇七番

小供洋服生地
今夏の新柄が澤山揃いました
相かはらず御用命の程御願い申します
各女學校御用達
平町田町
ハシモトヤ糸店

レコードハ此のマーク！を
HIS MASTER'S VOICE TRADE MARK REGISTERED
肉聲のビクターレコード販賣店
會田時計店
平町四丁目（電話三六三番）
店員募集

改正 片濱乘合自動車時間表

平發	江名發
五時三十分	五時三十分
六時三十分	七時
八時	七時五十分
九時	九時二十分
十時	十時三十分
十一時	十一時五十分
十二時三十分	一時
一時五十分	二時
三時	三時三十分
四時	四時四十分
五時二十分	五時四十分
六時三十分	六時四十分

平のりば 四丁目和泉屋前 新川町車庫
江名のりば 沖見屋 電話十四番 松屋
鈴木片濱自動車部 電話二一七 車庫呼出電話一四二

營業種は 石炭 コークス 玉炭
磐城第一ノ石炭トシテ自他共ニ推稱スル
◎磐城炭礦ノ最上石炭
一、正味十貫目入 壹俵 金六十五錢
◎日本デ一番評番ノ良イ東京瓦斯コークス
一、コークス 壹俵 金壹圓三十錢
◎木炭ノ三倍御徳用ナ ツ ノ玉炭
一、玉炭 大箱壹箱 金貳圓
配達ハ一俵ヨリ致シマス
平驛前 ツ 阿部石炭商店 電話二三七番

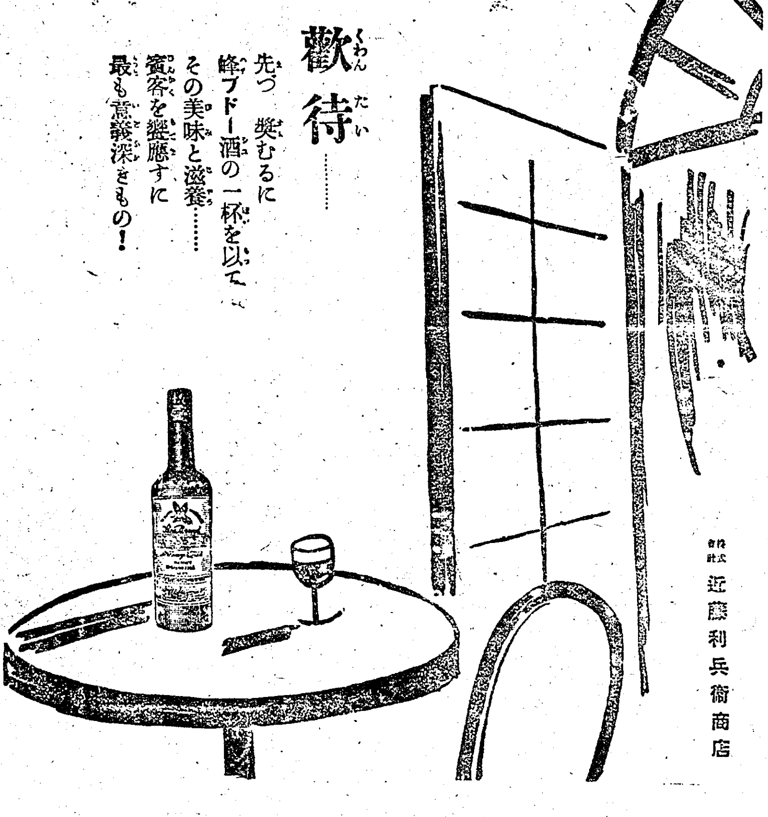
良品廉賣に勝る商略なし
磐城平町五丁目
磐城セメント株式會社特約代理店
和洋銅鐵金物問屋 ㊇ 釜屋商店
諸橋久太郎
電話九番 一三九番
振替貯口金座東京一〇九五六番
確實敏捷は㊇の生命なり

陳列卽賣中の
婦人倶樂部浴衣
音曲諸流家元好み浴衣
大好評で御座へます
御來觀の程願上候
平町三丁目
三井呉服店

生花敎授
池ノ坊流 生花を懇切丁寧に御敎授いたします、た遊びがてら御出で下さい。
平町十五丁目通り
須藤まつの

蜂ブドー酒

歡待……
先づ奬むるに蜂ブドー酒の一杯を以て
その美味と滋養……
賓客を饗應すに最も意義深きもの！



「蜂印香竄葡萄酒」といふ名稱を時代のお奬めに依り且は時勢の推移に鑑み今後「蜂ブドー酒」と改めます なほ市場にある從來のものは其儘にして御安心の上引續き御愛飲を願ひます
合資會社 近藤利兵衛商店

特賣！！
たひら正宗 福島縣清酒品評會 一等賞受領
花春 同 優等賞受領
醬油釀造元
鹽屋 山崎合名會社
電話一〇番

營業種目
內地材 材木各種、羽柄材各種 建築諸材請負 礦山用坑木其他諸材請負
外材部 米松、米杉、大角製材調達請負 其他
㊅ 佐藤材木店
常磐線平町新川町
電話三三五番

內臟外科
外科一般
花柳病科
入院隨意 自炊の便あり
平町田町大通り
安齋外科醫院
電話四三六番

明るい「普選」に暗影を投じた 石城郡下の町村議選擧
舊法に輪をかけたモグラ式運動
各署一齊の綜合調査

石城郡下に於ける町村議選擧は大半を終了し來る七月一日の赤井村を最後に結了を告げる事となつたが平、植田、四倉の各署では今回の普選取締狀況即ち各候補者の運動ぶり脫法行爲

違反形態 等について詳細なる調査を行つてゐるが

それに依れば普選の運動ぶりは舊法時代に比して著しく深刻化し潜航艇式になつていはゆる巧妙なる脫法行動の案出に苦心した跡が歷然たるものあり舊法時代は大びらに戶別訪問其他の表面運動をなしつつあつたものがこの度は地の底を行く底のもぐら式運動一點張りといふ有樣であつた

尤も名は普選であるから表面的な文書言論戰も相當行はれてゐたがこれを利用したものは新顏に多く舊人は依然として大膽深刻なる舊式運動に一層輪をかけて脫法につとめたものであることが判つた、右につき平署の某氏は語る

〔淸き一票明るい普選〕の標語が新時代の政治的覺醒を象徴してゐるとは言へ實際上は斯の如しで舊法時代の大びらな運動に比較すればむしろ暗い感じが却つて濃厚になつて來たといふ憂ふべき狀況である、舊法時代の戶別訪問即ち叩頭運動や個々面接運動は言はゞ平面的な運動であつたがこの度のを見ればこれが潜航艇式の連鎖運動に轉化したといふことが出來る

な不景氣の世間では東京でも高女出の人達が澤山職に就かうとする有樣で田舍出の人達を迎へる餘地は殆んど無い狀態であるのみならず東京でも地方でも近頃の雇主は單に高等女學校卒業丈けでは採用しないで或一つの熟練した

技能をもつた者を採る樣な傾向がある。即ち算盤が出來るとか簿記の心得があるとかタイプライターが打てるとかで無いと到底採用されそうもない有樣である。然しながら若し地方の方達がどうしても上京を志すならば其れ等の技術を就職前豫め習得しておいて然る後始めて職につくべきである。只漫然と東京に行きさへすれば幸福が待つて居るやうに思つて出て來るとあぶない。東京の表は奇麗である然し其處には醜い裏面がある。恐ろしい陷穽があるのを思はなければならぬ

社會の事 情に暗い若い女性達がフラフラと上京して思はしい就職口もなくまごまごして居る中に縱横に張られた惡魔にかゝつてつい手も足も出ないやうにされてしまふかも分らないから充分注意すべきであると

都の華かに憧憬れ家出する若い娘
愼まねば身を破滅する
平署で不斷警戒

石城郡地方は炭礦と漁場を有し人事の移動比較的頻繁な關係もあるか每年春から夏にかけて若い娘子等が都に憧憬れて家出するものがあり平、植田、四倉の各署では

不斷の警戒を拂つてゐるが平町紹介所員の語る所によれば今日の如く深刻

あす入札を執行の商港の中心地
平稅務署の整理公賣に買受の人氣沸騰

平稅務署では國稅の滯納整理に力を注ぎ最大の溫情主義を以て臨むでゐるが止むを得ざるものは用捨なく最後の手段に愬ひるより外なく既に公賣處分に附したものも相當に上つてゐる即ち炎城縣久慈郡太田町稻田愛太郞の國稅滯納整理の爲め同人の所有する本郡小名濱町字渚一ノ八四畑五畝四分外田畑合計一千四百九十六筆並に玉川村大原田反別五畝二十一步外田畑合計三百十五筆を公賣に附する事となり（六月九日附本紙廣告）明二十日午前十一時限り平稅務署に於て入札を執行する筈であるが同所は小名濱商港實現と共に最も重要なる中心地點として小名濱の將來に着眼する人々は競つて入札買受けの希望を有し隨つて豫期以上の買人氣を煽つてゐるから入札人も多數に達し豫期以上の成績を見るであらうと

石城米は依然安値
舊藏米も搬出

中町地方に於ける現在の米相場は移出玄米（一升）二十八錢七厘五毛、白米三十一錢で近年にない安値を示してゐるが昨年の相場を見ると最低が十二月の移出玄米二十六錢六厘九毛、白米三十錢一厘九毛、最高が九月の移玄三十一錢四厘三毛、白米三十五錢四厘三毛で平均に見ると移玄二十八錢八厘八毛、白米三十二錢四厘七毛に當り目下の相場は昨年の平均値に相當してゐると云ふ珍現象を示してゐる米の値が好かつたと云ふのは一昨年（二年度）六月中の移玄三十七錢八厘、白米四十一錢で現在より一升に付き十錢の高値であつた、これからは地方農家の舊藏米が賣出されるので出廻りは盛んになるらしい

濃霧に取卷かれ捕鯨船遭難
きのう江名沖合ひで
船員辛じて救助

石城郡小名濱町捕鯨船第二春陽丸は十七日午前四時二十分小名濱築港を出帆し同日午後七時半頃豐間沖に於て作業をなし歸航中江名町字新戶江名港沖約一浬ヶ距れた地點に於て濃霧に襲はれ激浪甚しく進路を誤つて船體は暗礁 乘り上げ船尾から浸水し船中は海水充滿し乘組員は危く浪に呑まれんとするので極力救助を求めてゐるを江名漁業組合消防手が發見共力して船長間山富英外十三名を無事救助した

鹽屋岬に無電
海洋の難所も容易に
航行者の福音

石城郡豐間村鹽屋岬に建設する遞信省の無電局はいよ／＼廿二日橫澤で請負入札をなし直ちに起工することになつた

無電局の總工費は約廿萬圓 現在の燈臺附近に鐵筋コンクリートの局舍を新設、舍內は動力、配電蓄電、發受信など數室に分れ發電機は廿ボルト五十サイクル三相合流式七五馬力一臺、誘導電動機に百ボルト五十サイクル單相合流式五馬力一臺と決定したがアンテナは出鼻附近に六十六尺の鐵塔とし海底より三百尺の高いものとする豫定である 完成の上は航海の魔所とはれる磐城海も海陸の聯絡を得て難破船の救助はもとより如何な濃霧でも自由に航行し得ると期待されてゐる

古河の野球軍

石城郡好間村古河炭礦所員五十名は古河野球チームを編成し目下猛烈な練習中で今秋九月の大塚運動具店主催の石城野球大會に出場する筈であるが各方面から當りを期待されてゐる

四倉町會
戶數割委員附托

石城郡四倉町では十七日午前十時から町會を召集し

一、町有財産の處分に關する件

一、危險木拂下の件

一、土木、學務その他の委員へ決定の件

一、今年度特別稅戶數割賦課額決定の件

等を物議したが特別稅戶數割賦課の件は十八日から三日間に亙り全員委員となつて見立割その他の調査決定の筈である

四倉繭市場
相場は依然高調

四倉繭市場の十八日の相場は最高白八圓六十錢、黃七圓六十八錢、最低白六圓十錢、黃六圓五十七錢、平均値白七圓九十錢、黃七圓三十五錢、總貫數二千二百八十七貫、五百四十匁內譯白二千六十七貫八百八十匁黃二百二十六貫六百六十匁である

御知らせ

東京府下代々幡町幡ヶ谷五九七國府田亮一、政夫の兩氏宛送附する磐城新聞は本人不在の理由で本社に逆送されて參ります右新聞差出人は何誰ですか不明の爲處分に困つてゐます （係り）

竹馬で富士登山
愈々來る七月廿四日
花澤君の快壯擧

中町白銀町靑年團員花澤輝一君は先年竹馬を乘て富士登山に成功したが此の記錄的一大壯擧を壯んならしむべく地元靑年團が尻押しで愈々來る七月廿四日花々しき壯途に上る事となつたが後援者には 東京日々新聞社、加瀨本縣知事、久保田東京鐵道局長、吉田東京驛長、林慶應大學總長を初め有力知名の士を網羅し東京蒲田の松竹キネマは此の壯擧を映畫に收め全國的に紹介する計劃もあり如何にして成功を收めんものと意氣健昂たるものあるが竹馬は竹と鐵板を以て成る高さ一尺のものであると

生繭動態
平驛貨物の輸送先は各地

平貨物取扱所に於ける繭の輸出は十二日を皮切りに今十九日まで特別小口七噸小口十五噸貨切五十三噸合計七十五噸で個數にすれば六百五十七個であるが輸出方面は主に中央線岡谷、福島郡山方面、原の町、孫子方面であると

銀行會社
上半期の決算

磐城セメント 株式會社株主總會は二十二日開會今期利益金處分案を附議する筈であるが當期純益金五十一萬五千圓にして株主配當年九分（前期は八分）監査役の改選を行ふと

磐城水産工業 小名濱町の磐城水産工業會社今期總會は來る二十九日開會し今期利益金處分案を附議するが商港の起工によつて益々社業を擴張するの準備時代にあり相當飛躍を期待されてゐる

箱根に招待
仁壽生命平支店で

仁壽生命平代理店山崎與三郞氏並に同生命平監督所では同社の創立卅五週年と平監督所設置五週年記念の爲め今回二千圓新加入（千圓は二名）の契約者を箱根溫泉に招待する事となり監督所長小野長吉氏外大々的に募集に努めてゐるが箱根招待は九月中旬で一泊二日の豫定である

郡下靑年團
陸上競技
優勝旗も新調

石城郡下靑年團陸上競技大會は今秋九月擧行する筈であるが今年は平町大塚運動具店にて優勝旗一流を寄贈したので初めて優勝旗の爭奪戰が開始されるので各團は今から氣勢をあげてゐる

山田村の火事

石城郡山田村澤田留男（三二）方から十七日午後四時二十分ころ發火し同家及び隣家なる蛭田金吉方住家三棟非住家三棟を全燒同四時半漸く鎭火した原因は蠶兒部屋の火鉢からで損害約三千圓

內鄕の賭博團

石城郡內鄕村佐藤東一郞外六名は十七日午後十時頃同人方で金錢賭博をなし一味平署に檢擧された

平小玉川合併

平電氣會社では過般石城郡小玉川水電會社と合併したので十八日同會社からこれに依る水利權讓り渡しの認可方を縣を經由して遞信大臣に申請した

平消防組で 火の用心
けふ市內一齊に

平消防組では最近つゞけざまの火災に鑑み市內の各火防組と共力し十九日午前八時より幹部總出で煙筒、竈の檢査その他の火防督勵をなした

劇と映画

聚樂館 東京大名題尾上菊三郞、音羽多見丸一行の新聞讀者慰安觀劇會は昨夜より蓋明けたが一粒撰りの名優ぞろいで每夜大好評

平館 二十一日替り寫眞は草間實力演「天保俠炎錄」日活名篇「逆轉」野球大喜劇「ロイドのスピーデー」等である

潮來出島への旅
石城造士會 齋藤昌武

押上から京成電車へ

春の初めから終にかけて若葉が茂げる頭學窓の友す自然の美しさを探ぐつて旅することも、比較的繁雜なむさくるしい都下の學生々活の餘暇にはたのしい。且しい意義のあるものであらう。これら學友との水鄕への旅ごゝろを書いてみる。四日の朝まだき午前五時相談をまとめてゐた、學窓の友はやゝもすると雲がちな東の空に異常なたのしみをいだきながら京成電車の窓を通す朝景色に目をちらつかせて押上のステイションを後にした、……古き昔江戶人士の趣味生活のこの下ないユーモア生活の中心地だつた向島近く名に負ふ吾妻橋、ついで枕橋……墨堤河畔に、ものゝふの詩吟を漂はせながら水鄕への車はこゝらあたりから車窓の若人に興奮の波をおち來し初めてゐた。この地有名な七福神、長命寺の辯財天に詣いづる機會はもてねど腦裡にうかぶ連想に實寫の幾分をいだき出しながら四つ木立石と進んでゐた。昔一千年前安部淸明が紀州への途次分祀したと云はれる熊野神社も頭の中の夢にす通りせねばならなかつた……

江戶川の里餘の長堤に新緑をぬうて淸風にふかれながら……美しい靑田の中心を車はいよ／＼開拓の田園にそへ初めてゐた。

船橋から成田へ

靑田のそれにはめづらしいブロードな湖水が眼前に展開され初めた、……何處だらう。それは友の同時に發した言葉田圃の間に聳立する電信塔に船橋近くなるを思へ出した。……船橋船橋……車が止まつたその瞬間列車のスリガラスを通して目に映じた無線電信所それは且つて學友との話題に上つてゐた獨乙ナウーエン無線の形により作られたと云ふ大きなもの電車は六千浬の海外までとゞくと云ふから驚かされたとは車の上のす通り稻毛の海！斷絕した低い砂丘の上に老松をいたはりながら、高くつらなる房總の連山に！さてははてしない海に、あさりほふき拾ふ乙女姿を思ふとこは退屈な車窓の若人達に何かの話題を持ち來してゐた。一々下車して見學する時を持ち得なかつた、一行は唯窓々に映づる、パノラマ式の風景にかへつて興を得たかもしれない、いつか汽車は成田に進んでいた豫定通り車をたり小雨至る街道に總武線の心鄕たる成田不動に詣る、停車場から片道五錢の電車はあつたが先づ乘らないで步いたのだつた……安政の昔作り大寶塔、額堂、さては神鳩に、豆をくばりながら境內の松籟のうなりを聞いて東に入る自然の園地に遊ぶ……小供の頃母親からお受けした成田さんのお守はこゝに來て一層幼時のなつかしさとありがたさを體驗して立ち去る機會を得しめたのであたつらう！。靜寂な別天地である、

佐原から香取へ

佐原は昔忠敬先生の出生地であると先生が日本國土地勢を自測なされ吾が國地理學史の上に不朽の名を殘されたところ稍々もして變きぬ偉績を欽慕するの情に耐いない。かねて願み得た川蒸氣にのせられて佐原を立つ、低い丘には異蒔が生いてゐる、肥いてゐる田地には自然の情景さよく調和されたこの地の百姓が社會の所謂荒い氣い人々とはかりはなれ、何んの不平もなさそうにそれが自と與へられた仕事であるかの樣に黑い土を掘りかへしてゐる書伯ミレーの繪かなつかしい

美味にして強壯の効著大
血をふやし肉を肥やす
スッポン飴 一圓 三圓
スッポン酒 二圓
スッポンヘモクロビン錠 三圓
平町五丁目角 山野邊藥局

平町紺屋町 吉田眼科醫院

緣したゝる初夏!!
かるく涼しく丈夫な白靴
△弊店獨特……白革底
自製品 A……六、〇〇 B……七、〇〇
靴の御用は……形ト仕事ト 安價デ……確實な
平田町 大塚支店製靴部へ 電話七〇二番

夜間診療
胃腸 內科 十二指腸虫病 專門 內科部
梅毒 淋病 婦人病 皮膚病 專門 外科部
松村胃腸性病科醫院 （平南町電話一〇七番）

（切取線）

讀者觀劇券
名題 尾上菊三郎 音羽多見丸 大一座
（此券持參の方は金十錢）
六月十八日より 聚樂館で
磐城新聞社發行